

「ビリギャルは元々頭がよかっただけなんじゃないか？」  
というようなことを、本当によく、言われる。そのたびに、  
当時恩師とした会話を思い出す。

「さやかちゃんさ、君がもし慶應に本当に受かったら、周  
りの人はなんて言うと思う?」「えー、きっとみんな喜んでく  
れると思う!」「残念ながらきっとそうはならないよ。君が  
もし慶應に本当に受かったら、周りの人はきっと途端にこ  
う言い出すだろう。『さやかちゃんはもともと頭がよかつた  
んだね』って。じゃあ、君が同じだけの努力をして、同じだ  
けの実力をつけて、慶應に受かるはずだったのに試験当  
日熱を出して、慶應に落ちたのでしょうか。つまり、プロセス  
は同じでも、結果だけが違ったとする。すると周りの人は  
なんて言うと思う?」「きっと悲しんでくれると思う」「残念  
ながらそうもならない。きっと多くの人はこう言うだろう。  
『ほら、どうせ無理って言ったでしょ』ってね。君が思っ  
ている以上に、周りの人は結果からしか判断してくれないの

だということ。君がどれだけ頑張ったか、どれだけ下から  
必死で這い上がってきたのか、なんてことはみんなどうで  
もいいし、見てくれないんだよ」恩師はそんなことを言っ  
ていた。私は意味が分からなかった。そうかな。きっとそん  
な風にはならないだろうな、受かったらみんな喜んでくれ  
るし、落ちたら悲しんでくれるはず。先生の言うような冷た  
い人は、私の周りにいないと思うな、と心の中で思ってい  
た。先生は続けてこんな風に言った。「でもね、何が一番  
重要かっていうと、死ぬ気で何かを頑張ったという、その  
経験こそが君にとって一生の宝になるよ」

この言葉の意味を、私は7年後、恩師が私の大学受験  
のときの話を出版したときに、ようやく理解することがで  
きた。

そして今、みなさんに一番伝えたいことは、「私にあった  
のはももとの地頭ではなく、自己肯定感だった」というこ  
とだ。自己肯定感とは、私だったらできるっしょ!やってみ

なきやわかんないっしょ!!と、飛び込む勇気のことであ  
る。やるかやらないか、さあ、どっち?ときかれたとき、ほと  
んどの人は「自分にはどうせ無理」「失敗するのがこわい  
から」と挑戦しない道を選んで生きている。でも私は、周  
りが何と言おうと、「櫻井翔くんみたいなイケメンがゴロゴ  
ロいる世界に私もいつてみたい!」と目をキラキラに輝か  
せて挑戦してみただけのことだ。ももとの頭の良さや偏  
差値なんかよりも、この分かれ道を間違え方がよほど致  
命的だと思う。

挑戦すらししないで、のちのち成功しているように見える  
人を「あの人はもともとそういう才能があったから」と言っ  
て見ているだけなのはなんとも寂しい気持ちがある。どん  
な小さなことでもいい。何歳になってからでも遅くはない。  
「挑戦」の先には、「失敗」もあるだろう。しかし、「挑戦」が  
なければ「成功」も永遠に訪れないのだ。そしてこの(ち  
っこくても)成功を積み上げていったその先には、もっとワ

クワクする挑戦したいものが現れる。なぜか?自己肯定感  
とはヴィジョンを描く力であり、成功体験をすればするほ  
どこの力が大きくなるからである。

こうやって人は世界をどんどん広げていけるんだと思  
う。すべては自分次第なのだ。挑戦するかしないかで、こ  
んなに大きく変わってしまう。私は、受験で学んだ「生きて  
いくために大切なこと」を、今もずっと大切にしている。そ  
れは、慶應に受かるための効率的な勉強法でも、1日15時  
間勉強し続けるメンタルトレーニング法でもない。「挑戦し  
続ける人生の面白さ」である。

失敗も成功もない人生なんて、つまらない。私は、おばあ  
ちゃんになっても、何かしらに挑戦し続ける人生にしたい  
と思う。何も言わなくても、多くの後輩たちがそんな私の  
姿を見て、「ああ、あんなオトナになりたいなあ。楽しそうだ  
なあ」って思ってくれるような生き方をしたいと、常に思っ  
ている。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (写真:塚本敏行)

特集  
挑戦

MESSAGE

挑戦って最高!



小林 さやか  
KOBAYASHI Sayaka

プロフィール

1988年3月生まれ、名古屋市出身。「学年ビリのギャルが1年で  
偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」(坪田信貴・著)  
の主人公であるビリギャル本人。高2の夏に小学4年レベル、偏  
差値30の学力しかなく、教師に「人間のクズ」と呼ばれたことも。  
その後、1年で偏差値を40上げ、慶應義塾大学に現役で合格。  
卒業後はウェディングプランナーとして仕事をし、2014年にフリ  
ーランスに転身。現在は講演、高校現場でのインターン、学生・親向けのイ  
ベントやセミナーの企画運営など幅広い  
分野で活動中。2019年3月には、自身  
初の著書『キラキラの君になるため  
にビリギャル真実の物語』(マガジンハ  
ウス)を出版し、2019年4月より、教育  
学の研究のため大学院に進学。

